

イデックスオイルレポート ~For a week~

2020/12/11作成 (株)新出光

【概況】 <原油在庫増加も下支えされ>

●4日、新型コロナワクチンの早期実用化見通しや米国の追加経済対策協議進展への期待感を背景にリスクオンムードが強まるなか買いが優勢になりました。また、前日に開催されたOPECプラスの閣僚級会合で来年以降の減産規模縮小が小幅なものに留まったことも支援要因となり、ニューヨーク時間未明には9ヶ月ぶりの高値圏となる46.68ドルまで上昇しました。

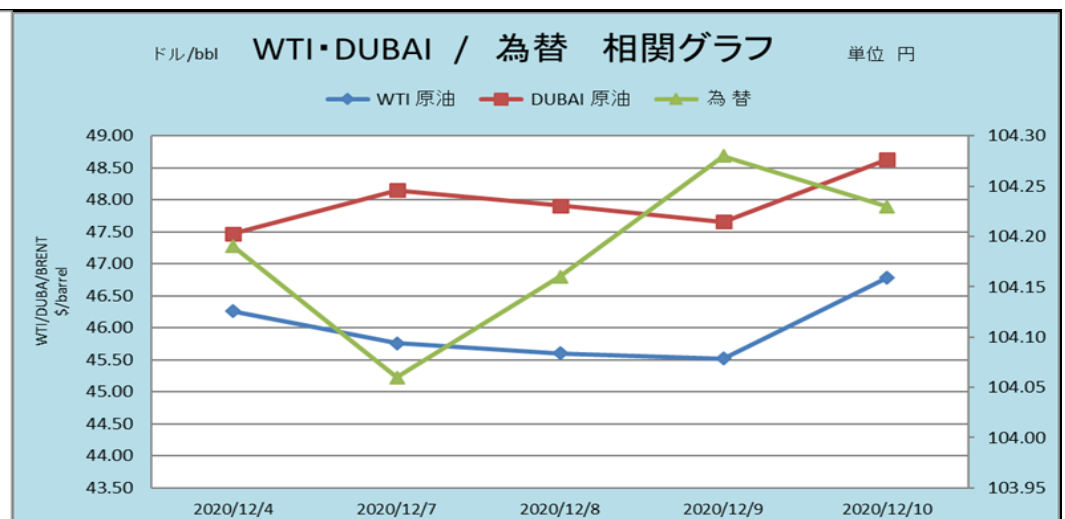
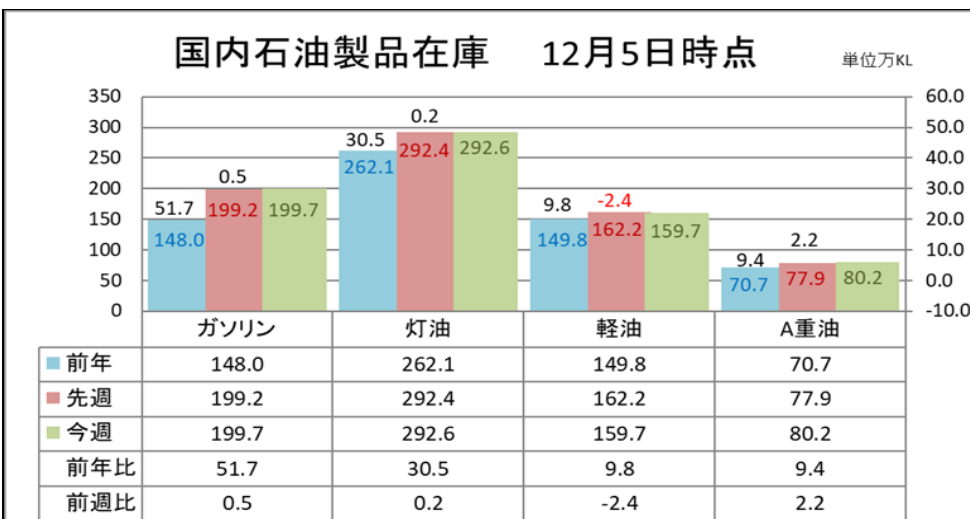
●7日、トランプ政権が中国への制裁を相次いで発表するなか米中関係悪化に対する警戒感が強まったことや新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化している米カリフォルニア州で外出制限などの規制が強化されたことを受け石油需要の減少が懸念されたことで下落しました。

●8日、米国での新型コロナウイルス感染者数の急増を受けカリフォルニア州で外出制限などの規制が強化されたことが引き続き圧迫要因になりましたが、米国の追加経済対策に対する期待感や、英国でワクチンの接種が開始されたことが下支え要因となり、引けにかけて下落幅を縮小して取引を終えています。

●9日、米石油協会(API)が発表した週報で原油在庫が市場の減少予想に反し大幅に増加したことや製品在庫の増加を受け戻り売りが優勢となり45.33ドルまで下落していましたが、売りが一巡すると米国の追加経済対策や新型コロナウイルスワクチンへの期待感から買い戻しが優勢となり、欧州時間帯にプラス圏を回復し46.24ドルまで上昇しました。米エネルギー情報局(EIA)が発表した週報で、原油在庫や製品在庫が大幅に増加したことを受け足元の需給の緩みに対する警戒感が強まると、時間外取引中の安値を割り込み一時44.95ドルまで下落しています。

●10日、前日は米エネルギー情報局(EIA)が発表した週報で原油在庫が市場の減少予想に反し大幅に増加したことや製品在庫の増加を受けて下落していましたが、新型コロナウイルスワクチンへの期待感から買い戻しが優勢となったようです。また、イラクで発生した油田火災について、同国高官が「テロによる攻撃だ」と述べ、中東地域の緊張が高まったことも支援要因になっています。

12月11日 17:00現在 WTI原油 47.07ドル 為替 1ドル 104.10円



	次回元売変動予測		【製品卸価格】 <原油上昇に市況も膠着状態に> <<今週>> 今週の元売り仕切り改定は「+0.5円」の値上げ改定でした。値上げ後月間リンクの玉を扱うディーラーが市況の天井と見て販売を強めるとの見方が大方の予想でしたが、下がりづらい原油相場を見てか、製油所周りで大きく下げて販売をしていく向きはあまり多くありません。 <<12月12日以降>> 来週の元売り価格改定は「+0.5~+1.0円」の値上げ予測です。コロナの感染拡大による懸念はありますが、それよりもワクチンの開発や米の追加経済対策、欧州中央銀行による追加緩和などの上げ材料に支えられ、原油は上伸しています。ただ、市況としては荷動きが悪い中で、値上げして販売できるというわけでもなく、前日の横ばいで販売を続け枠の消化を優先しているとの思惑が多く見受けられます。二次基地・三次基地では週末分で値下げに動くディーラーも見受けられましたが、反対に値上げして様子を見極めたいディーラーもいたために、価格帯として幅が広がる結果となりました。週明けからは寒さも全国的に下がることが予報されており、灯油の需要もついてくるのが期待されていますが、週末分で特段オーダーが旺盛であったということでは無いようです。週明けも市況は上げ下げ少ない状況が続くことが考えられます。
	12/17~	元売変動予測	
ガソリン	➡	+0.5~+1.0	
灯油	➡	+0.5~+1.0	
軽油	➡	+0.5~+1.0	
A重油	➡	+0.5~+1.0	
LSA	➡	+0.5~+1.0	

※現段階の原油コストによる予想です。

【トピック】 <定修終わり稼働率も上向き>

稼働率としては、11月29日~12月5日時点で事故や定期修理などによる稼働停止を除いた稼働率(実稼働率)は83.9%、設計能力稼働率としては75.2%。緊急事態宣言後の最低水準からは10%程度上げています。ENEOS和歌山製油所も今週稼働を再開し、現在止まっているのはENEOSの水島B工場第2トッパー、ENEOS大分製油所となっています。製油所の定修も目処が立ち、一部不具合や事故等で止まっている基地もありますが、ほぼ通常通りの状態に戻っています。ただ、国内の需要としては、コロナ禍による外出の自粛や年末年始での帰省を中止するなど燃料の使用が落ち込むことが今後も予測され、足元でもSSの出荷は悪くなっているようです。実際大手元売りによると12月1日から現時点までの出荷は前年比▲7%となっているようで、全国的に燃料出荷は落ち込んでいます。そのため特にガソリンは前年比で見ても在庫が積みあがっており、前年比で30%程度が高い水準にあります。昨年と比較して、海外のマーケットが安いために輸出数量が減り、反対に輸入は継続して行っていることも在庫を上げる要因として考えられますが、国内の需要が冷え込んでいることも間違いないと思われます。